

巻頭言

錯視とは何か.....蘆田 宏
解説

光学における錯視について.....北岡明佳
錯視の数理とさまざまな応用.....新井仁之

人工知能による蛇の回転錯視の再現.....渡辺英治
同時色対比の色相特性と空間特性.....鯉田孝和

フォーカス

逆遠近錯視を用いた錯視文字看板.....林 武文
錯視効果を用いたプロジェクションマッピングによる

仕掛け絵本.....藤井浩光
光学ハイライト

気になる論文コーナー

今後の特集予定

53巻 2号「光周波数コムを用いた新しい分光・形状計測」

53巻 3号「応用の広がるフォトニック結晶レーザー」

53巻 4号「光学の美容皮膚科学への活用」

53巻 5号「社会実装が加速する深紫外光技術」

53巻 6号「2023年日本の光学研究」

本誌ではおおよそ10年に1回のペースで光学教育についての特集が組まれてきましたが、今回は少し間が空いて、第39号(2010年)以来13年ぶりとなります。過去の特集は人材育成や光学の教え方といったテーマであり、同じ観点であってもこの年月の間にさまざまな変化があったかと思えます。しかし今号では、人生のなかで光学に触れ教育を受けるさまざまな機会、という切り口で、幼少期から成人後まで、各年代で触れる光学教育についてご執筆いただきました。

学校における授業や実験といった身近な題材のなかにも、独自のアンケートや教材、またコロナ禍の影響など新しい話題を加えていただき、また大学から大学院以降の教育環境については米国の大学における詳細なカリキュラムや日本の大学・大学院との違い、また社会人を対象とする人材育成事業の変遷といった、著者の経験と知見に基づいた独自性の高い記事をご執筆いただきました。

教育機関に所属、あるいは企業で後進を育てる立場の方々にとって有用なだけでなく、その他の読者の方々にとってもご自身が受けた教育を懐かしく振り返ると同時に、新しい視点に気づく興味深い特集になったかと思っております。

なお、日頃のお仕事や研究内容とは異なる題材について快くご執筆くださいました著者の皆様、および企画の立案・実施にご協力くださった編集委員会・編集局の各位に改めて深く感謝申し上げます。(藤村, 水谷)

原著論文を募集しています

「光学」では、日本語の原著論文を募集しています。会員・非会員を問わず、自由に投稿できます。皆様の意欲的なご投稿をお待ちしております。

また、上記に加え、特集テーマに関連のある原著論文も募集しています。この場合、採択となった論文はその特集号に合わせて掲載できるよう、査読作業をより迅速化いたします。特集テーマ関連の投稿締切は、当該特集号発行月の4か月前の10日です。特集号を明記のうえご投稿ください。

日本光学会ホームページ <http://myOSJ.or.jp/>

光 学 2023 ©

第52巻 第12号 <月刊>

2023年12月10日 発行

定価 1,500円 (送料実費)

発行/ 一般社団法人 日本光学会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-23-11

常光ビル 7F 有限会社学術新報社内

E-mail: info@myOSJ.or.jp

印刷/ 大昭和印刷株式会社

「光 学」編集委員会

山本 裕紹*	芦原 聡**	内田 美幸	江川麻里子
岡野 誉之	小野 雅司	角田 英俊	金高 健二†
黒坂 剛孝	小泉 直也	齋藤 直洋	酒井 大輔
下垣 哲也	庄司 暁	鈴木 良政	瀬谷 安弘
田代 知範	堅 直也	玉田 洋介	張 開鋒
角井 泰之	中川 桂一	中村 友哉	日達 研一
藤井 瞬	藤村佳代子	堀切 智之	堀崎 遼一†
水谷 康弘	水野 洋輔	三宅 大助	本山 央人
森本 智英	安田 英紀	山中 真仁	

*委員長 **副委員長 †光科学及び光技術調査委員長

編集局 新沢佐和美

制作/ 有限会社学術新報社

電話 03-3816-3991 Fax 03-3816-3992

E-mail: kogaku@academic-j.co.jp